

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史学概論 I
科目基礎情報					
科目番号	0029		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『新編世界の歴史』北村正義 (学術図書出版) ・ 『最新世界史図説タバーストリー』 帝国書院編集部 (帝国書院) ・ 『大日本帝国の時代』 由井正臣 (岩波ジュニア新書)				
担当教員	藤野 月子				
到達目標					
ヨーロッパ・日本における市民革命及び産業革命の歴史的な意義と相違点を理解し、如何にして列強が各地へ進出し、互いに対立を深めていったのか、現代へと繋がる過程が理解出来る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ヨーロッパ・日本における市民革命及び産業革命の歴史的な意義と相違点が深く理解・説明出来る。	ヨーロッパ・日本における市民革命及び産業革命の歴史的な意義と相違点が理解・説明出来る。	ヨーロッパ・日本における市民革命及び産業革命の歴史的な意義と相違点が理解・説明出来ない。		
評価項目2	如何にして列強が各地へ進出し、互いに対立を深めていったのか、現代へと繋がる過程が深く理解・説明出来る。	如何にして列強が各地へ進出し、互いに対立を深めていったのか、現代へと繋がる過程が理解・説明出来る。	如何にして列強が各地へ進出し、互いに対立を深めていったのか、現代へと繋がる過程が理解・説明出来ない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代の社会を理解するためには、近代の過程を理解することが必要不可欠である。このことを通じ、世界を舞台に活躍する国際人としての視野を形成し、ひいては、世界の今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての内容は学習・教育到達目標(A)の〈視野〉及びJABEE基準1(2)の(a)及び(f)に対応する。</li> <li>授業は講義形式で行う。講義を聞き、教科書や図説を見つづ、配布したプリントの空欄を埋める。</li> <li>「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。</li> </ul>				
注意点	<p>&lt;到達目標の評価方法と基準&gt; 下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を、前期中間・前期末の試験で出題し、目標の達成度を評価する。重みは概ね均等とする。満点である100%の得点により、目標の達成を確認出来るレベルの試験を課す。プリントの提出も行い、長期休暇中にレポートも課題として提出させ、それらも評価に加味する。</p> <p>&lt;学業成績の評価方法および評価基準&gt; 前期中間・前期末の試験の平均点で評価する。ただし、前期中間の試験について60点に達していない者には再試験をする。再試験の結果が60点を上回った場合には、その成績を60点として置き換える。</p> <p>&lt;単位修得要件&gt; 学業成績で60点以上を取得すること。</p> <p>&lt;あらかじめ要求される基礎知識の範囲&gt; 今日の世界で起こっている歴史的な出来事に普段から関心を寄せておくこと。新聞やテレビのニュース等も教材として随時利用する。</p> <p>&lt;レポートなど&gt; 長期休暇中にレポートも課題として提出させ、それらも評価に加味する。</p> <p>&lt;備考&gt; 『最新世界史図説タバーストリー』は授業に必ず携帯すること。授業で保障する学習時間、及び、予習・復習(前期中間・前期末の試験のための学習も含む)、更に、レポート作成に必要な時間の総計が45時間に相当する。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	市民革命1 市民革命とは? イギリスの場合	1. ヨーロッパの市民革命の歴史的な意義が理解出来る。	
		2週	市民革命2 アメリカの場合	上記1に同じ。	
		3週	市民革命3 フランスの場合	上記1に同じ。	
		4週	産業革命1 産業革命とは? イギリスの場合	上記1に同じ。	
		5週	産業革命2 ベルギーとフランスの場合	上記1に同じ。	
		6週	産業革命3 ドイツとアメリカの場合	上記1に同じ。	
		7週	産業革命4 ロシアと日本の場合	2. 日本の市民革命の問題点及び日本の産業革命の特徴が理解出来る。	
		8週	中間試験	上記1・2の内容が理解出来る。	
	2ndQ	9週	ヨーロッパ列強による植民地化1 オスマン帝国	3. 列強によるオスマン帝国への進出の過程と影響が理解出来る。	
		10週	ヨーロッパ列強による植民地化2 インド	4. 列強によるインドへの進出の過程と影響が理解出来る。	
		11週	ヨーロッパ列強による植民地化3 東南アジア	5. 列強による東南アジアへの進出の過程と影響が理解出来る。	
		12週	ヨーロッパ列強による植民地化4 中国	6. 列強による中国への進出の過程と影響が理解出来る。	
		13週	帝国主義1 帝国主義とは? イギリスとフランスの場合	7. ヨーロッパの帝国主義の成立と展開が理解出来る。	
		14週	帝国主義2 ドイツ・ロシア・オーストリア・イタリアの場合	8. 列強による世界の分割の過程と影響が理解出来る。	
		15週	帝国主義3 アメリカと日本の場合	9. 日本における帝国主義の過程と影響が理解出来る。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	プリント	レポート	合計	
総合評価割合	80	10	10	100	

配点	80	10	10	100
----	----	----	----	-----